会　議　名	第３回MINATOビジョン　コ・デザイン会議
開 催 日 時	令和８年７月７日（火曜日）午後2時～午後4時
開 催 場 所	男女平等参画センター 学習室Ｃ
委　　員	出席者：清家愛区長（座長）、泉山塁威委員（オンライン）、 森山誉恵委員（オンライン）、佐々木孔明委員、 中川哲委員、古長谷鷹念委員、平田和弘委員、 森園結唯委員 欠席者：遠藤まめた委員、大木聖子委員、金圓景委員、 コバーチ・エメシェ委員
事　務　局	出席者：大澤副区長、浦田副区長、新宮教育長、 野上企画経営部長、江村企画課長事務取扱参事
次　　第	１ MINATOビジョンの検討状況について ２ MINATOビジョン策定に向けた意見交換
資　　料	［資料］ １ MINATOビジョン（たたき台）概要 ２ MINATOビジョン（たたき台） ［参考資料］ １ MINATOビジョンの検討状況について ２ MINATOビジョン コ・デザイン会議における意見の反映状況一覧 ３ MINATOビジョン コ・デザイン会議委員名簿 ４ MINATOビジョン コ・デザイン会議設置要綱

会議の結果及び主要な発言

清家区長	＜開会＞ お時間になりましたので「第３回MINATOビジョン　コ・デザイン会議」を開会させていただきます。座長を務めます、港区長の清家愛です。本日もどうぞよろしくお願いいたします。 本日の会議から新たに２名の委員にご参加いただいております。環境・リサイクル分野では藤原和広委員の人事異動に伴いまして、平田和弘委員に新たに就任いただきました。また、学生分野については杉山琴珀委員が学校を卒業されたことに伴いまして、森園結唯委員に新たに就任いただいております。 ここで簡単にお２人に自己紹介をお願いできればと思います。 それでは平田委員からお願いいたします。
平田委員	みなと環境にやさしい事業者会議幹事の平田と申します。よろしくお願いいたします。 前任の藤原が人事異動により転勤となり、後任として着任いたしました。普段は東京ガスで勤務をさせていただいております。 今回、2040年の港区のビジョン策定に携わるメンバーに参加させていただくということで、非常に重責だと感じておりますが、環境にやさしい事業者会議の幹事として、そしてエネルギー会社の知見を少しでも生かしながら、微力ながら協力させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
清家区長	よろしくお願いいたします。次に森園委員お願いいたします。

森園委員	この度、学生分野を務めさせていただくことになりました、戸板女子短期大学の森園結唯と申します。普段の学生生活の中で感じる学生ならではの視点をこのような会議で港区の未来づくりに少しでも貢献できたらいいなと思いますので、不慣れな点もあるかと思いますがどうぞよろしくお願いいたします。
清家区長	ありがとうございます。平田委員、森園委員、どうぞよろしくお願いいたします。 本日の会議の出席状況ですが、森山委員、そして泉山委員がオンラインから参加されております。 金委員、大木委員、遠藤委員、コバーチ委員が都合により欠席となっております。ご承知おきください。 これまで委員の皆様には、コ・デザイン会議、そしてシンポジウム、タウンフォーラムにも参加していただきました。それぞれの専門的な立場、またご経験から、様々意見交換を重ねていただき、2040年代の港区の将来像を取りまとめることができました。改めまして心より感謝申し上げます。ありがとうございます。 港区では、将来像を実現するために何をするべきか、政策や施策の立案を進めてきており、検討途中のものもありますが、本日はMINATOビジョンのたたき台について委員の皆様には専門的な観点から反映すべき視点、そして取組についてご意見を頂戴したいと考えております。 委員の皆様におかれましてはぜひ積極的にご意見を交わしていただき、活発な議論を進めていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 限られた時間ではございますが、次第に沿って進行を進めさせていただきます。 はじめに、MINATOビジョンの検討状況について、これまでの検討経過、また本日お示ししますMINATOビジョンのたたき台の位置付けなどについて、事務局からご説明させていただきます。 それでは事務局から、よろしくお願いします。
事務局	MINATOビジョン（たたき台）についてご説明いたします。たたき台の説明の前に、これまでの検討状況につきまして、振り返りを兼ねて簡単に説明いたします。参考資料１をご覧いただけますでしょうか。 令和７年５月に第１回コ・デザイン会議を開催し、MINATOビジョン策定の趣旨や、今後の進め方について共有をいたしました。７月にはシンポジウムを開催し、コ・デザイン会議の委員の皆様から2040年代の港区について、専門的知見に基づく発表、意見交換を行っていただきました。その後11月にはタウンフォーラム報告会を開催し、タウンフォーラムで検討した2040年代の港区の将来像についてご意見をいただきました。令和７年12月の第２回コ・デザイン会議では将来像案について委員の皆様で意見交換を行いました。こうしたご意見を踏まえまして完成した将来像について、実現に向けて区が取り組むべき政策・施策の検討を進め、現時点でのたたき台をまとめました。 委員の皆様には、将来像の実現に向けた政策・施策の方向性などについてご意見をいただければ幸いです。

	それではお手元のタブレットから資料２「MINATOビジョン（たたき台)」をご覧いただけますでしょうか。 ２、３ページでは、はじめに港区は「伝統と新しさが、出会い続けてきた場所」であることに触れ、「今の港区を大切にしながら、今よりももっと住みやすいまちに。そして未来へつないでいきたい。そんな想いから、港区の新たなビジョンづくりが始まりました。」と掲載しております。 ４、５ページでは、タウンフォーラムや全区民アンケート、コ・デザイン会議など、MINATOビジョン策定に向けた検討について写真を交えてまとめております。 ６ページから10ページでは、2040年代の港区の将来像を掲載しております。「今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち」、これがこれまでコ・デザイン会議で皆様にご検討いただいた2040年代の港区の将来像でございます。 次に15ページをご覧ください。「１ 未来への道しるべ　MINATOビジョン」についてです。 16ページから19ページではMINATOビジョンの位置付けや、目標年次等をまとめております。 次に21ページをご覧ください。「２ 未来を考えるために「今」の港区を知る」についてです。22ページから25ページでは、港区の「地勢・人口」「個性と魅力あふれる「５つの地区」」「データで見る「港区」」などについて掲載しております。 26ページから35ページでは「多彩で魅力あふれる５つの地域」、芝地区、麻布地区、赤坂地区、高輪地区、芝浦港南地区の特徴について掲載しています。 次に37ページをご覧ください。「３ 明るい未来を切り開くために2040年代を見据える」についてです。38ページから42ページでは2040年代の潮流などをまとめております。 次に43ページをご覧ください。「４　2040年代に向けた「政策」」についてです。42ページから163ページでは、各分野の将来像とその実現に向けた政策・施策、基本方針等について掲載しています。 44ページをご覧ください。子ども・子育て分野の将来像は、「子どもたちとともに描く、今を生きる子どもを未来へつなぐまち」です。 46、47ページでは政策、施策を見開きで掲載しています。子ども・子育て分野の政策名は、「子どもたちの今を守り、明るい未来をつくる」です。これは将来像の実現に向けた区政の基本的な方向性を示すものであり、2040年代まで一貫して維持する区の考え方となります。 その下の説明文は、子ども・子育て分野についての区の認識や価値観を示し、何を成し遂げていくのか区政の方向性を表現しています。右側には施策体系を掲載しています。それぞれの施策は政策の実現に向けた取組の方向性を示すものです。３つの施策から成る体系で、施策１子ども・若者一人ひとりの成長を支える、施策２安心して子どもを生み育てられる環境をつくる、施策３子

	ども・若者や子育て家庭を地域で支える、です。 48ページをご覧ください。こちらでは施策１子ども・若者一人ひとりの成長を支える、について、目標、成果指標、現状と課題、右側には基本方針を掲載しております。基本方針は施策を実現するために区が取り組むべき方向性を示したものです。 50ページから53ページでは子ども・子育て分野の施策2、施策3について掲載しています。政策2以降も同様の内容となっています。 次に54ページをご覧ください。福祉・保健分野です。将来像は「孤立させない地域の輪をつくる。お互いが支え合い、一人ひとり自分らしく暮らせる健康福祉先進都市」です。56、57ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「一人ひとり寄り添い、心豊かな暮らしを支える」です。５つの施策から成る体系で、施策１お互いが支え合い、自分らしく暮らせるまちをつくる、施策２地域の絆で誰もが自分らしく暮らせるまちを支える、施策３健やかで心豊かな生活を支援する、施策４健やかな生活の実現を経済的に支援する、施策5その人らしい暮らしを地域と寄り添い、支える、です。 なお、福祉・保健分野の方針については、分野計画である地域保健福祉計画の審議会を開催しており、そちらで内容を検討中のため、調整中となっております。 次に68ページをご覧ください。街づくり分野についてです。 将来像は「“ひと”をまんなかに“港区ならでは”をつくる。これまでを紡ぎ、未来へ駆ける心躍るまち」です。70、71ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「暮らしを支える舞台をデザインする」です。５つの施策から成る体系で、施策１良好な居住環境と国際ビジネス拠点が両立したまちの形成、施策２誰もが安心して健やかに住み続けられる良質な居住環境の形成、施策３多様な手段による、利用しやすく快適な交通ネットワークの形成、施策４緑と水が育む人と自然が共生する魅力ある都市空間の形成、施策５誇りと愛着に満ちた個性が光る街並みの形成、です。 次に82ページをご覧ください。環境・リサイクル分野についてです。将来像は「みんなの意識と行動が未来を変える。自然が暮らしを彩るサステナブルシティ」です。84、85ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「自然と環境を次世代へつなぐ」です。５つの施策から成る体系で、施策1脱炭素社会の実現と気候変動への適応を進める、施策2ごみを生まない循環型の都市をつくる、施策3健康で快適に暮らせる生活環境をつくる、施策4自然と生物にやさしい都市環境をつくる、施策5環境に対する意識を高め行動を広げる、です。 次に96ページをご覧ください。防災・危機管理分野についてです。将来像は「今と未来を守るために備える。住民同士が支え合う防災・危機管理モデルシティ」です。98、99ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「「備え」と「支え合い」による安全・安心を実現する」５つの施策から成る体系で、施策１備えと日常を定着させる、施策２支え合いの力を広げる、施策３災害や危機に対応できる体制を整える、施策４「守り、守

	られる」犯罪に強いまちをつくる、施策５安全を支える基盤を強化する、です。 　次に110ページをご覧ください。産業・地域振興分野についてです。将来像は「文化と芸術がまちを織りなす。人と企業が共創するグローバル・クリエイティブシティ」です。112、113ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「多様な主体との連携の輪を広げ、新たな魅力を創出する」です。６つの施策から成る体系で、施策１多様な人と地域資源がつながり、誰もが参加・活躍できる共生都市をつくる、施策２多様な文化と人をつなげ、国際都市・みなとをつくる、施策３多様な人と文化が共生し、豊かな社会を支える「文化の港」をつくる、施策４中小企業の成長段階や課題を捉えた経営支援を推進する、施策５にぎわいや魅力あふれる商店街の持続的な発展を支援する、施策６港区の魅力を生かした持続可能な都市観光を推進する、です。 　次に126ページをご覧ください。教育分野についてです。将来像は「今日までを大切に、明日を考え、未来へ進む。学びの種が芽を出し、世界へ伸びていく教育都市」です。128、129ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「誰一人取り残すことなく、全ての人の学びを生涯にわたり支える」です。７つの施策から成る体系で、施策１「徳」「知」「体」を育む質の高い教育を推進します、施策２未来を切り拓く人材を育成します、施策3多様な学びに丁寧に寄り添う教育を推進します、施策４みんなと学びをつなぐまちをつくる、施策5誰もが生涯を通じてスポーツを楽しみスポーツで元気になるまちづくりの推進、施策６生涯を通じて豊かな学びを支える図書館サービスを推進します、施策7学びのための環境整備と支援、です。 　次に144ページをご覧ください。全体に通底する人権・共生分野の施策についてです。144、145ページでは見開きで政策・施策を掲載しています。政策名は「多様な価値観を尊重しながら誰もが平等に参画できる地域社会を実現する」です。３つの施策から成る体系で、施策１平和を尊重する想いを、未来を担う次世代へつなげる、施策２差別をなくし、人権が尊重される社会を実現する、施策３性別にとらわれず、多様な価値観を尊重する、です。 　次に152ページをご覧ください。行政経営の政策についてです。152、153ページでは見開きで政策、施策を掲載しています。政策名は「限られた経営資源を最大限に生かし、持続可能な行政経営を実現する」です。５つの施策から成る体系で、施策１社会変化への迅速な対応と政策形成を推進する、施策２持続可能な財政運営と公共施設管理を進める、施策３行政DXと開かれた信頼される区政を推進する、施策４全国各地域・企業等とともに、地域課題の解決と新たな価値創出を推進する、施策５人材確保･育成と働きやすい職場環境を推進する、です。 　次に165ページをご覧ください。「５　社会課題の解決を先導する「リーディングプロジェクト」」についてです。2040年代を見据え、高度化・複雑化する行政ニーズに対応するため、少子化対策の推進など、分野横断的な課題を５つ、リーディングプロジェクトとして説明しています。166ページから175ページに掲載を予定しておりますが、内容については現在調整中となっております。

	次に177ページをご覧ください。「６　アクションプラン」についてです。178ページから210ページでは、区の財政計画や複数年度にかけて区が取り組む計画や事業を掲載しています。 最後に、211ページから224ページを資料編として「港区基本構想及びこれまでの港区基本計画策定の推移」、各資料等を掲載する予定です。以上がMINATOビジョン（たたき台）の説明です。 なお、MINATOビジョン（たたき台）の作成に当たり、これまで委員の皆様からいただきましたご意見をたたき台に反映したものの一覧を参考に配布しております。本日はこのたたき台を基にしてまず分野に関係の深い委員からご意見をいただき、その後、各委員からご自身の分野にとらわれず、フリーディスカッション形式で自由に意見交換をしていただきたいと思います。 なお、政策や施策の大きな方向性につきまして、各分野の専門的な知見から2040年代に向けて加えるべき視点や不足している点などについて、ご意見をいただければ幸いです。 また、個々の文言は検討段階のものでございまして、表現やデザインにつきまして、今後素案の公表に向け改めて整理していくものでございますことをご承知おきいただければと思います。 本日のコ・デザイン会議は、検討中で未確定の内容を含みますので、非公開とさせていただいております。資料につきましても取扱注意でお願いいたします。 素案公表後は、会議の様子や会議録等について公開をする予定ですので、よろしくお願いいたします。 事務局からの説明は以上でございます。
清家区長	ありがとうございます。今の事務局の説明に対して、何かご質問などありましたらお願いします。
森山委員	これは何回議論して確定になるのか、決まっていればお伺い可能でしょうか。
事務局	今日ここでご議論いただきまして、そのまま区で素案を作成していく作業になります。素案ができ上がった際に改めてお示ししたいと思っています。
清家区長	議論するのはこの場で、ここでの話を受けて修正し、皆様にお示しし、意見をいただいたらまたそこで修正するということでしょうか。
事務局	素案としてお示ししますので、そのときに皆様からのご意見、また広くパブリックコメントもいただくことになります。そうしたものを合わせて反映していく予定です。
森山委員	今日全てにコメントをすることは難しいのですが、後日メールで追加があればお送りしても大丈夫でしょうか。
清家区長	大丈夫です。よろしくお願いいたします。 ほかにご意見等がありましたらお願いします。このあとそれぞれの分野のご意見をいただいて最後にまとめる予定ですか。
事務局	最後にまとめて総括的なご意見がございましたらいただければと思います。

清家区長	分かりました。皆さんほかにはよろしいですか。それでは次に進めさせていただきます。MINATOビジョンの策定に向けた意見交換をさせていただきたいと思います。 最初に、子ども・子育て分野についてです。 お手元のタブレットからMINATOビジョン（たたき台）の44ページをご覧ください。子ども・子育て分野の政策・施策について、森山委員からご意見いただければと思います。
森山委員	私は子育てや保育の分野というよりは、特に声が届きづらい若者、中高生世代や、虐待や貧困等の世代の視点を中心に読ませていただきました。それ以外の視点については、また後日追加があれば意見ができればと思っております。 内容の中で、どのようにこの数字を出したのかなど、そのような質問をさせていただいてよいですか。 まず、48ページの政策1施策1で気になったのは、３つ目の成果指標「児童館及び子ども中高生プラザ等での高校生世代の延べ利用者数」が目標値として掲げられているのですが、港区さんで以前高校生向けに実施したアンケートを読ませていただいたときに、高校生世代に限るのですが、「自宅が頼れる先になっている」という人が９割で、「自宅以外に居場所がない」と答えた高校生が３割ぐらいいるので、かなり自宅に依存している傾向が見受けられるなと思っております。 これは全国的な傾向としてもそうなのですが、特に進路や自立性において、港区の場合は家庭の影響力が強いのではないかというところを踏まえて見ると、利用者数だけでなく「自宅以外に居場所や相談相手がいる」ということを掲げるほうが、その後の自立や引きこもりなど、本来18歳以降は自立に向かっていく年齢なのにもかかわらず、その手前である高校生の９割が自宅に依存しているという状況を踏まえると、もう少しその辺の数字が、ここの利用率というよりは、自宅以外の居場所や相談相手がいる環境を目指すほうがよいのではないかと思いました。 同じアンケート調査で、交流や活発な居場所よりも静かな居場所を望んでいる若者のほうが多かったことも踏まえると、児童館や中高生プラザは活発な場所になりますので、あえてそこだけを指標に掲げる必要はないのではないかと感じたのがまず1点目になります。 もう1つは、52ページの成果指標の２番目「支援を求める子どもや家庭からの新規相談受理件数」の目標値が3,500件というところが、何から逆算された数字なのかを、お伺いできたらうれしいなと思いました。
清家区長	それでは事務局、お願いいたします。
事務局	まず1点目、48ページの成果指標の利用者数の取り方ですが、今ご意見があった「自宅以外に居場所や相談相手がいる」、そういう件数を成果指標として行政が抑えられるかどうかという問題があると思います。今のご意見を踏まえて可能なのかどうかというところを検討させていただきたいと思っています。 ２点目、この3,500という相談の件数、目標の取り方ですね。

森山委員	何から逆算して3,500件なのだろうということです。
事務局	直ちには分かりませんので、確認させていただきたいと思います。
森山委員	分かりました。ではご提案として、出し方としてなのですが、港区さんが去年か一昨年実施した高校生アンケートでは、１割が「相談相手がいない」と回答するなど、全国的に色々な調査を見ても中高生世代は少なくとも５分の１、多いと３分の１、約３割が「相談相手がいない」という傾向があります。自分で相談できる中高生以上に関しては、少なくとも人口の１割から３割ぐらいを指標にするのはどうかと思いました。 また、高校生世代の保護者のアンケートにおいては、６割が「子どもの関わり方に悩んでいる」と答えているので、そういった指標を基にすると、保護者に関してはもう少し高い割合の方が「悩んでいるが相談につながっていない」という現状があるのではないかと思いましたので、目標としては、そういったところを指標にするのがよいのではないかと思いました。 また、さきほどの１つ目のものについては、すでに港区さんが実施しているアンケートで「３割が自宅以外に居場所がない」という調査が取れているので、それの追跡調査として５年後がどうだったかということを測っていくことで、十分計測可能なものではないかと思いましたので付け足しをさせていただきます。以上です。
事務局	ご意見ありがとうございます。特に5年ごとの追跡調査の件は大変素晴らしいご指摘かと思います。そこは調整させていただきたいと思います。ありがとうございました。
森山委員	よろしくお願いします。
清家区長	ありがとうございます。ほかにご意見がございましたらぜひお願いします。ほかの委員の皆様いかがですか。こちらから振らせていただいてしまいますが大丈夫でしょうか。 では中川委員、教育の観点からどうですか。子どもの主体性、自己肯定感の育みや、また将来社会で自分らしく活躍できる力を伸ばしていくために重要と思われるような視点などありましたら、ぜひお伺いできればと思います。
中川委員	多くの小中学校にお子さんを通わせている保護者という目線で言うと、学校でICT端末を使って教育を進める一方で、「家でどういうふうに指導したらいいのか」ということに悩んでいらっしゃる方が多いのではないかなと思っています。それは、学校で貸与した端末もそうですが、家庭で保護者が使っている端末を子どもが使うときにどういうふうに管理していくのか悩まれている保護者に対して、何か相談に乗れるような窓口や、セミナーなどがあってもいいのかなと、お話を聞いて思いました。
事務局	ご意見ありがとうございます。所管にも伝えまして、保護者が悩む、そこに対するセミナーというような視点で実施してはどうかという意見だったかと思いますが、今、直ちにとはいきませんので確認させていただきます。

清家区長	相談できる窓口など、そこに対する何かしらの政策があるといいですね。ありがとうございます。 古長谷委員、若者の視点で、いかがでしょうか。
古長谷委員	53ページの基本方針３「子ども・若者の自立と社会参加を促進します」に「学校・職場・地域等への参加・参画の推進」とありますが、ここで想定している「地域への参加」は、学校を卒業した後の若者が対象でしょうか。 私としては、在学中の子どもも含めて「子どもを地域で育てる」ことを港区の方針として打ち出してよいと思います。例えば夏休みの朝のラジオ体操のように地域と関わる機会はすでにありますが、小学校単位にとどまっているのが実情です。学校の枠を超えた地域単位の取組を進められるとよいと思います。
事務局	「学校・職場・地域等への参加・参画の推進」という方針が、子どもの推進のことをいっているのか、社会の側が学校や職場や地域等への参加・参画なのか定かではないので整理します。
清家区長	ほかには大丈夫ですか。それでは次に進めさせていただきます。次は街づくり分野の政策・施策についてです。 お手元のタブレットから、MINATOビジョン（たたき台）の68ページをご覧になってください。 街づくり分野の政策・施策について、泉山委員からご意見いただければと思います。泉山委員、お願いします。
泉山委員	分野というより全体的な話になるかもしれないのですが、19ページの政策・施策と個別計画などの体系図で、街づくり分野の分野計画が「まちづくりマスタープラン」となっています。本来、総合計画であるMINATOビジョンと、まちづくりマスタープラン（都市計画マスタープラン）は同じぐらいのレベルで考えるべきものなのですが、まちづくりマスタープランが街づくり分野だけの分野計画になってしまっているというのは、本来的な位置付けになっていないなと思っています。 例えば、これまでの議論でも、複数の政策分野にまたがる内容が結構あり、緑や環境、防災、子どもの話も全部街づくりに関わってきますので、この計画体系との関係には非常に違和感があったというのが大きいところです。 また、内容的な話で言いますと、総合計画なので抽象的になりがちなのは仕方がないかなとは思いつつ、69ページでは非常に港区らしいまちの話をしているのですが、逆に言うと、それまでのページでは港区らしい話が出てきていないのがもったいないなと思っています。ぜひもう少し個性的なキーワードが、概要版や全体にも入ってくるようになるといいかなと思いました。 また、今、住宅価格の高騰が非常に問題視されています。私は東京都住宅政策審議会の委員も務めているのですが、港区の場合は、低所得層向けのアフォーダブル住宅だけではなく、中間所得層すら住めなくなってくるのではないかと思います。いわゆるミドルインカムハウジングと言われるものですが、普通の人が住めるようなまちを考えていかないといけないと思います。先日サンフランシスコに行ったのですが、住宅費が高すぎて住めず、人口

	が減少しているようで、港区もそういうことになりかねないのかなと思います。国内外からの住宅需要が高まるほどそうした傾向は強まりますので、住宅政策はもう少し強めに打ち出したほうがよいのかなと思いました。 それから全体的に、これは行政の計画にありがちなのですが、ハード整備の記述が多いと感じました。今は公園なども含めて、整備したものを「使っていく」「活用する」、あるいは「マネジメントしていく」ということがセットになってきています。そこは当然、行政だけではなく、地域や住民の方の参加が重要ですし、それを促すだけでなく、行政と地域が一緒になって公園や道路を使っていくという視点が、ハード整備と同じぐらい（イーブンに）書かれてくると、2040年代らしい計画になると思いました。 細かいことは色々あるのですが、全体としては大きくこのような視点があるかなと思いました。
清家区長	ありがとうございます。大変参考になるお言葉で、おっしゃるとおりだと思います。港区らしさがある、個性的なキーワードをもう少し全体として足すといいかなと思います。 また、2040年代らしいというところで、ハードだけではなくてソフト、運営一体でという視点が大事ということで、本当にそのとおりで、そのようにしてほしいと思いますが、事務局いかがでしょうか。
事務局	ご指摘ありがとうございます。今のご指摘を踏まえまして、港区の個性が出るように、全般的にそのような形で見直したいと思います。 また、住宅施策のことにつきましても、今庁内でも課題に感じており、横断的に検討をはじめているところですので、何らかの形で反映できるようにしたいと思います。
清家区長	ありがとうございます。ほかの細かいご意見もぜひいただければ、気が付いたことなどあればよろしくお願いします。 ほかに、委員の皆様のご意見はいかがでしょうか。
中川委員	先ほど泉山委員のおっしゃったソフトの面の施策が少し強く出ればいいかなと思います。確か前回ウォーターフロントを上手に活用して色々な特区にしましょうというような話があったと思うのですが、そういった特色が港区らしく出てくると。私は専門外ですが、過疎地の活性化の議論を一度聞いたことがあって、そこは人に泊まりに来ていただくだけではなくて、そぞろ歩きをして地域を感じていただくみたいなことに力を入れてやっていらっしゃる。ということは、そういう施設の周りにお店が出たり、サービスが提供されたり、といったことを商店街が一致団結してやられていたという取組だったのですが、そういったことを区として後押ししますよ、みたいなことが強く出ていると港区らしく、港区の個性がすごく伝わる施策になるのではないかなと思いました。
清家区長	そうですね。本当にそのとおりと思います。そうしたところも踏まえていきたいと思います。ありがとうございます。

平田委員	泉山委員の言われたことと少し似ていると思うのですが、街づくりを通じて、にぎわいや緑をつくっていくということはここに記載されているとおりで素晴らしいことだなと思っているのですが、やはり街づくりを通じて防災や環境負荷の低減などにも取り組めるはずだなと思っています。分野横断的なテーマが街づくりにかかってきたときに、ここのページにどうやって表現していくべきなのかなというのは難しいなと感じました。にぎわいだとか快適性だとか緑だけではなくて、二重の表現になるかもしれないですが、防災の強化ですとか、レジリエンスですとか、あとは環境負荷の低減も街づくりに十分関係してくる内容だと思っていますので、その辺をどう表現するべきなのかなと思いました。 あとは、港区らしいということにおいては、非常に再開発が多いエリア、自治体様だと思っていますので、市街地再開発事業が非常に多いエリアとしてあれこれ、と書いたらどうかと私は感じました。
清家区長	ありがとうございます。
事務局	おっしゃるとおりで、街づくりの政策なくして、防災はうまくいかない、環境ももちろん同じだと思います。両方の視点がそこにうまく取り込めるような、それが読み取れるような形に表現ができればと、そこは工夫させていただきます。
清家区長	お願いします。ありがとうございます。
古長谷委員	具体的な提案になりますが、現在の港区には、子どもたちが思い切りボール遊びのできる公園がほとんどありません。一方、東麻布やジャンクションの下など、高速道路沿いには高層ビルが建たないエリアが一定程度あります。こうした土地を港区が整理し、子どもの遊び場として整備するといった土地活用を検討していただきたいと思います。
清家区長	そうですね。子どもの視点でボール遊びができたり、子どもが育つのに必要な体を動かす場であったり、そうした場所を作っていくというのは区政としても非常に重要に考えているところです。
事務局	138ページにスポーツの話は入っています。
清家区長	首都高の下というのは東京都ですか。
事務局	そういう場所をいくつか交渉もしていますし、色々やっているところもあります。
清家区長	どこまでかけられるかというのはありますが、そこも含めてそうした視点で子どもの遊び場、育つ場というのを区内につくっていくというのは入れていきますか。
事務局	その視点は、79ページの3 開発の計画的誘導と地域連携による価値向上の中点2つ目「開発事業等と地域連携による魅力・価値の向上」、もう1つが139ページのところで観点としては踏まえております。
清家区長	そうした視点も分かるように、と思います。

事務局	そこははっきり分かるようにします。
清家区長	ありがとうございます。ほかには大丈夫ですか。よろしいですか。 それでは次に進めさせていただきます。次は環境・リサイクル分野の政策・施策についてです。お手元のタブレットからビジョンの84ページをご覧ください。環境・リサイクル分野の政策・施策について平田委員からご意見いただければと思います。よろしくお願いします。
平田委員	82ページの「脱炭素型のまち」「都会と自然が共生するまち」「3Rで循環型のまち」ということに対して矢線が引っ張られています。「脱炭素型のまち」のところで、「エネルギーステーションが街中にあり、環境負荷の少ない電気自動車や水素自動車などエコフレンドリーな移動が当たり前になっています」といったところが、まあまあ具体的だなと思いながら、今後電気自動車とか水素自動車がどうなっていくのかなという不安はあり、4年ごとに見直すのでしょうが、ここがまあまあ具体的かなとは感じました。でも全然問題はないと思っています。 先ほど街づくりの分野でも発言させていただきましたが、やはり市街地再開発計画が非常に多い自治体様でございますので、もう少しそのあたりがここの文脈の中で、自動車よりももう少しPRできないかなと感じました。 次は、86ページ目です。成果指標のところでまだ算定中・検討中という言葉がありますが、その下の現状と課題といったところを見ていきますと、中段に「二酸化炭素排出量の約７割を占める民生業務部門の削減を進める必要がある」と記載されています。私もまさにそのとおりだなと思っていまして、港区さん、本当に国際都市といいますか、当然区民の方の住宅もございますが、業務分野の建物が非常に大きくて、容積も非常にあるエリアでございますので、この辺りの対策を進めることが必要だというのは、記載していただいて非常にいいなと感じています。 あとは、ここはあまり細かいところを書くべきではないのかもしれないのですが、やはり先ほど申し上げました再開発の新築計画だけではなく、既存の小さなビルもたくさんある、その既設のビルの省エネ対策なども非常にボディーブローのように大きく効いてくるのかなと感じています。そういったところも助成金など区で用意していただいているとは感じているのですが、その辺を表現として散りばめられると、ここの３ポツ目の文章は少しだけ厚みが出てくるのかなと感じました。
清家区長	ありがとうございます。事務局、お願いします。
事務局	再開発の点について、これだけ再開発が多い都市は、確かにまれだというのはご指摘のとおりだと思います。そこはうまくこの中に盛り込めるかどうか、再度ここは検討させていただきたいと思います。 既存のビル、既設のビルについてその対策というところをどうしていくかというところも、検討課題です。そこも盛り込むことができるかどうか、そこは検討させていただきたいと思います。

平田委員	また現状と課題に戻りますが、２つ目の中点「屋上面積の制約や影の影響等により再エネ設備の導入難易度が高い。」といったところもまさに都心エリアであるがために非常に大きな課題だなと思っています。すでに検討中かと思うのですが、再エネ設備の導入難易度が非常に高いので、壁面や曲面屋根を利用した都心型の太陽光発電パネルの設置なども、区の施設だけでなく民間の施設に設置する際に支援していただけるような、そんな施策も大切なのかなと思っています。あとは、区内だけでCO_2削減の目標達成が難しい場合は、オフサイト型のコーポレートPPAの検討ですとか、そういったものも必要になってくるのかなと思っています。以上です。
清家区長	ありがとうございます。
事務局	壁面や曲面屋根を利用した都心型の太陽光発電パネルの設置というのは政策課題としては認識しておりますので、ここに書けるかどうかというところがありますが、そこは政策としては踏まえたいと思っています。また、オフサイト型のコーポレートPPA、そこはどのようなものなのかも含めてご教示いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。
清家区長	よろしくお願いいたします。貴重なご意見ありがとうございます。いただいたご意見を踏まえて検討していきたいと思います。 ほかに、委員の皆様からご意見などございましたら、いただきたいと思いますが、どうでしょうか。中川委員、何かありますか。
中川委員	リサイクルは、学校教育を通じて行い、子どもの理解が促進されると、保護者もやらなければと思うというところがあって、そういう意味では教育とも関連して、取組余地は多いのかなと思うのですが、環境という観点から教育との連携というようなことも書いていただいたらどうかと思います。
清家区長	そうですね、しっかりと踏まえていきたいと思います。ありがとうございます。ほかには大丈夫ですか。 それでは次に進めさせていただきます。次、産業・地域振興分野の政策・施策についてです。MINATOビジョン（たたき台）の110ページをご覧ください。コバーチ委員からは事前にコメントを頂戴していますので、事務局から紹介させていただきます。お願いします。
事務局（コバーチ委員のご意見代読）	それではご紹介いたします。コバーチ委員のご意見です。 まず、子どもの参加機会についてということで、今後みなとこども会議のような企画がある場合には、外国人の子どもが参加できるようにするとよいのではないか。 災害時の情報発信についてということで、防災ラジオで緊急の放送が流れる場合には英語でも放送されるとよいのではないか。港区災害時外国人支援室のXアカウントについては、災害時に情報が届きやすくなるよう、平常時から存在感を高め、フォロワーを増やしておくことが重要ではないか。例えば、防災用品や非常食を購入できる店舗、避難バッグに入れておくとよい物品、地震体

	験車に乗ることができる機会など、日常的に役立つ防災情報を投稿してはどうか。 　地域参加交流という点については、外国人住民が町会・自治会に参加しやすくなるよう、加入や参加を促進してはどうか。祭りやイベントなどを通じて外国人住民を巻き込むことは、多文化創生の推進につながるとともに、日本語の習得や異文化交流の観点からも有益ではないか。 　そういうご意見をいただいております。以上でございます。
清家区長	ありがとうございます。続いて産業・地域振興分野の政策・施策について佐々木委員からご意見いただければと思います。
佐々木委員	港区が今後更に発展していくために、ベイエリアの魅力向上が重要だと考えております。例えばお台場で開催されているアクアシンフォニーのような魅力的なコンテンツがあっても、私が土曜日の夜に行ってもまだ十分に集客に至っていないのではないかなという印象もあり、コンテンツ単体ではなく、周辺の施設、飲食、ショッピング、宿泊など連携した掛け算のような街づくりを進めていくことで滞在時間や消費額を大きく伸ばすのではないかと考えました。 　また、お台場海浜公園のビーチについても、より積極的な活用をしていければと考えております。年間を通じてイベントやエンターテインメントを展開して、夜の目的地として、国内外から人を呼びこめるようなエリアとして進化させるべきだと考えます。 　さらに、芝公園、都市部のほうでも、ナイトタイムエコノミーの強化の余地はまだあると考えております。 　最先端のテクノロジーやエンターテインメントを集積できる特区のような制度を検討して、新たな都市の魅力、港区でしかできないようなエンタメ・テクノロジーを展開できるといいのではないかと考えています。 　そして、港区は日本を代表するビジネス拠点であると同時に、スタートアップや若手アーティストが自由に挑戦して実証実験などができるまちであることを目指していけるといいのかなと考えております。新しいアイデアが次々と生まれる環境を整え、新産業や新しい文化の創出にもつながると考えます。 　現在、地域振興に関する区民満足度が58%との記載があったので、この数字を2040年までに85%まで引き上げることを目標に掲げて、観光、文化、産業、テクノロジーの融合を合わせた魅力ある街づくりを進めていくことが重要だと考えます。
清家区長	ありがとうございます。
事務局	たくさんのご提案、ご意見ありがとうございました。 　確かにお台場のビーチは年間を通じて色々な企画にも使える場所だと思いますので、そこは政策、さらに個々の取組の中で色々と活用できればと思います。今、水辺の活用という点は区政の課題として取り組んでいるところですので、そこは大いにやっていければと思います。
清家区長	ここに来る直前まで水辺政策経営会議があり、水辺に関係する人たちで集まってこれからの絵を描こうということを始めている

	ので、水辺や、またそうしたナイトタイムエコノミーのところは、もっと可能性があって進んでいけるというところをやっていきたいと思っています。 特区に、というと、何か打ち出しがあったほうが描きやすいというのはあるなと思います。
佐々木委員	日本は結構規制が多いというのがあるのですが、海外でできていても、日本ではできないということも多くあるので、この海に囲まれたエリアで特区みたいなことができると、日本でここだけで見られるエンタメやアートといったものも生まれて、日本でも世界においても魅力的な場所になるのではないかなと思います。 あと、今まで東京都でプロジェクションマッピングに対する助成金みたいなものがあったのですが、今年からそれにドローンショーも追加されています。例えば水辺を使うイベントにも、港区なのか、東京都なのか、補助金を出して、あの港をもっと色々な人に活用してもらうというのも、それは昼夜を問わずですが、そういう少し後押しがあると、みんな色々な企画を考えて出してくれるのではないかなと思います。
清家区長	そうですね。水辺はそういう意味でポテンシャルが高く、まだまだこれから伸び代があるところなのでそういうビジョンをもって進めていきたいと思います。具体的にそういうものを入れていきたいと思います。 ちょうど先ほどの会議でも、シドニーでは今そのようなビジョンで始めていきたいと思っているというステークホルダーの方々のお話がありましたが、こちらできちんとそういう環境を整備して、皆さんが色々なアイデアを出しやすい、具現化しやすいような形をつくっていけるという、それが区としての役割だと思います。
古長谷委員	施策１の地域・コミュニティ、町会について、実際に町会に入ってみると若者層はほとんどおらず、PTA役員などのつながりがなければ新たに入ることも難しい状況です。町会を継続していくには、大学生など新たな層を一時的にでも受け入れる仕組みが必要だと考えます。ただし、上の世代には一時的な参加者を受け入れたくないという考えもあり、その間で板挟みになっているのが現状です。 「地域コミュニティを形成します」と書くだけでは「実際にどうするのか」が見えません。新しいビルの建設に伴って自治会の数自体は増えていきますが、既存の町会では町会費が半減したり、「払わない」「払っても意味があるのか」という声が多いところもあります。こうした実態を踏まえ、MINATOビジョンの記載は、より具体的な方策が伝わる書き方に見直したほうがよいと思います。
清家区長	ありがとうございます。そういうところが重要なところなので、これから2040年に向け、しっかり考えていきたいと思います。 ほかに何かご意見ありましたらお願いします。大丈夫ですか。 次は教育分野の政策・施策についてです。MINATOビジョン（た

	たき台）126ページをご覧ください。中川委員からご意見いただければと思います。よろしくお願いします。
中川委員	131ページの施策５「誰もが生涯を通じてスポーツを楽しみスポーツで元気になるまちづくりの推進」と、施策１「「徳」「知」「体」を育む質の高い教育を推進します」で、体づくりという点で、上下関係なのか前後関係なのか、どういう整理にすると読み手が読みやすくなるかな、と、アイデアはないのですが少し違和感がありますということがまず１点目です。 ２点目は、施策２「未来を切り拓く人材を育成します」で、私の専門の領域になりますが、教育の情報化というところに取り組んでいただいてありがとうございますというところなのですが、併せてバーチャルではないリアルの人間育成というところもとても大事で、それも教育委員会さんのほうでも汲んでいらっしゃると思うのですが、AI時代においてはとりわけ体験が重要だというようなことについて、前回私もお話ししたと思います。バーチャルを促進する一方で、体験をして自分自身をつくるという部分がどのように表現されているのだろうかという観点で見ると、区民の皆様が見たときに、少し弱いのかなと思います。 それが体づくりだ、でも体験なのに体づくりだけではないというと、例えば冒頭で歴史と未来とおっしゃっているので、歴史を感じる何かの教育にすごく力を入れていますというところが、どう表現すればいいのかなというところが少し引っかかると思っています。 それから、確か前回、区民の方からのお話があって、教育は子どもの教育だけではなく、生涯教育も含めてなのだということをおっしゃっていただいたかなという記憶が残っていて、本当にそのとおりだと思っています。生涯教育でとりわけシニアの方々が、デジタルが進んでいくときに取り残されてしまうデジタルデバイドの問題を、教育の分野でどう取り扱うべきなのかというのは感じています。実際私にも、都民ではないのですが85歳位になる母がいまして、やはりデジタルがだいぶ疎くて、色々なサービス解約を私が代わりにしたりしています。 トレーニングや教育の機会に、高齢者にデジタルを易しく理解してもらうような機会というのが含まれていると、都民の方としても「港区に住んでいれば教育も学校で終わりではないのだ」という感覚が得られるかなと思います。 あわせて、先ほども申し上げましたが、保護者が子どもにデジタルをどのように使わせるのかなど、自身の生成AIの理解がしっかりできていない段階で家庭に起こっていることとして、子どもが今分からないことを「ねえお母さん、ChatGPTに聞いてよ」というやり取りがよくあるのですが、そのお母さんが生成AIを正しく理解して子どもに伝えられているのかというと、ChatGPTにはこう書いてあるよと、伝聞、非常に浅い学びになってしまっているということがあります。こういうことがあるという前提で、保護者に対する生成AIなりデジタルの教育というところももう少し盛り込めたらいいのではないかなと思います。 136ページの左下の表なのですが、この網掛けされ色が濃くなっ

	ているところの意味が私はパっと直感的に分からなかったので、数字が多いということかなと思うのですが、読み手がこの塗られているところをどんな意味があると感じるかどうか、というのがよく分からなかったというところです。社会教育士が必要であるのに施設にいないということなのですかね。改めてどちらのことなのか教えていただきたいと思っています。 施策６の読書のところで、私は今、東京都の子供読書推進委員の委員なのですが、そこでも東京都にも申し上げているのですが、デジタルファイルの閲覧数の伸び率が倍々で高いように感じるのですが、これを見た区民には「港区はデジタルの読書を推進しようとしている」というメッセージにならないかなと心配しています。裏腹になるのですが、私は、読書は紙も大事だと思っていまして、この成果指標がどのように伝わるかというのを少し心配しています。 私は紙の読書とデジタルの読書の、デジタルをやめてくださいと言っているではなくて両方あるべきだと、どちらでも好きなほうを選べるべきだと思っているのですが、一番大事なのは、その読書にたどり着くプロセスだと思うのですね、その書籍にたどり着くプロセス。それが当然、図書館に行って本棚の中からの出会いというものもあれば、仲がいい人が読んで楽しいと思ったものはひょっとしたら私も楽しいかもしれないということもあります。単純に図書のデジタル化ではなくて、読書プロセスのDX化を推進したらどうかと思います。要は、普段の生活の中で、例えば図書館ソーシャルとなると、あの人はこんな本を読んで楽しいと言っているよという情報から、では図書館に行って本を借りてみようという、図書自体のデジタル化ではなく読書プロセスのデジタル化というところを考えたらどうだろうかと思っています。 最後に、学びのための環境整備のところで、港区で働く教員、教職員の皆さんに対する投資をしっかりやっていきますということが書かれてあって、私もそれをお願いしていたつもりでしたので、大変嬉しいことなのですが、さらにあるとよいと思うのが、区の教員が、日本全国の素晴らしい学びを推進しているという地域に足を運んで見て感じて共感してそれを港区のわが校で実際にやってみようと思うような取組をもっともっとされるとよいのではないかと思っています。可能なら、世界のどこかの学校に行くというのもよいと思うのですが、そういった取組も入っているとよいなと思います。今はどちらかというと働き方改革で、ワークロードを下げて子どもに向かうことが成果指標の中には書いてあると思うのですが、142ページにもう少し外向きというかプラスアルファで何か獲得できるようなものがあればいいなと思いました。以上です。
清家区長	ありがとうございます。幅広く様々な視点からご意見をいただきました。デジタルの扱いは見直しもある中でバランスよく出せるとよいかなと思います。保護者に対しても生成AIのそういったところや生涯学習という視点においてもしっかりと踏まえていきたいと思います。MINATOスタイルを全校展開し、子どもたちはそれぞれ機器を持っているのですが、その中で、それぞれが今勉強

	し、こういうのがよいというものを全員で共有できるような仕組みにもなっています。それぞれが自分のことを探求して楽しみながらみんなで共有もできるというスタイルで進めているところです。まさにおっしゃってくださったような形で進めているところで、そういう視点をどこかで出せるといいかなと思います。 　中学生がシンガポールやオーストラリアに修学旅行に行き、先生たちが行くことにもすごく意味があるなと思います。そうした働き方改革はまさに教員のところでいうとそうなのですが、もっと前向きというか、未来の視点で先生の可能性を伸ばしていくというような形の案が入るといいかなと思いました。 　ありがとうございます。事務局から、何かありますか。
事務局	ご指摘ありがとうございました。そういった視点・目線での様々な教育実践、より広く幅広く学んでいくところを入れるように調整できればと思います。 　また、施策４の表・グラフにつきましては、もう一度、こちらの課題との関係性を確認するようにいたします。ありがとうございます。 　それから「徳」「知」「体」と、社会教育としてスポーツが出てくる社会体育の推進というところ、一般の方が読んだときに分かりづらいという点がございましたので、そこを学校教育と社会教育が混乱しないような形で反映させていただきます。ご意見ありがとうございます。
清家区長	ありがとうございます。ほかにご意見ありますでしょうか。
森山委員	135ページの障害のあるお子さん、外国のお子さんや不登校の子どもといったところがICT、AIなどそういった流れと同じくらい今後大事になってくると思うのですが、障害のある児童の話というのは前のページのどことつながっているのですか。大事な話なのですが、急に出てきたという感じがしたのですが。これはどこと対になっているのか、135ページの２の障害の話ですね。
事務局	施策３の中の多様な学びというところで障害のある児童・生徒の学びを支援するということが基本方針として出てきています。
森山委員	これだと障害についての成果指標はないということですかね。
事務局	障害のある児童・生徒、この部分に直結する指標は今のところは確認できませんので、指標をどうするかというところはもう一度考えさせていただきます。
森山委員	これは読み解き方の話になってしまって大変恐縮なのですが、上から落ちてくるイメージで読んだほうがよいのか、どういうふうに読むと理解しやすいのかが全体的にまだ掴み切れていないのですが、私だけなのでしょうか。
事務局	基本的には政策の下に施策があって、施策の下に更に基本方針がある。より落ちてくるというか、より分かりやすく、具体化するような、そういうイメージで出てきますので、多様な学びに丁寧に寄り添う教育の中を具体化していくと、障害のある児童・生徒の学びを支援するというものが１つ出てくるということになります。多様な部分、学びというところが引かれてきているという

	ことになります。
森山委員	成果指標が全体的にとても具体的で、急に狭くなる一方で、方針となるとまた大きくなるので、これは違和感があります。まだ逆のほうが読み解きやすいのかもしれません。とりあえず成果指標がすごく全てにおいて小さくなっている印象が現実的に達成できるものとして掲げると、こうなるのは分からなくはない一方で、頭が混乱し続けています。
事務局	成果指標の取り方というのは、こうあるべきというところと、実際取れるかどうかということがあって、どうしてもこうなっているということはあります。確かにご指摘はそのとおりだと思います。もう一度工夫や見直しはしていきたいと思います。
清家区長	大事なご指摘、ありがとうございます。
森山委員	障害の話が抽象的に終わっているのが気になりました。
清家区長	そうですね。障害に関わるところについては、もう少し工夫していきます。ありがとうございます。ほかにはよろしいですか。 それでは次に進めさせていただきます。次は人権・共生分野の政策・施策についてです。お手元のタブレットのMINATOビジョン（たたき台）、144ページをご覧ください。本日欠席の遠藤委員から事前にコメントを頂戴していますので事務局から紹介させていただきます。
事務局 （遠藤委員のご意見代読）	それでは遠藤委員のご意見を紹介します。 まず、成果指標について、148ページの課題になります。 社会において差別や人権侵害があると自覚できることは、人権意識が高いことの表れでもあるため、成果指標は別のものでよいのではないか。例えば、差別や人権侵害が周りであったときに介入できると思うと回答する人を増やすなど、別の成果指標が考えられるのではないか。意識だけではなく、行動ができるかどうかという項目があると具体的な差別解消につながっていくと思う。 149ページの基本方針のところです。 基本方針の１ 区民への啓発と、３ 学習機会の提供の違いが分かりにくい。差別や人権課題の解消に向けて動ける区民を増やすことが大事であり、その視点を盛り込んではどうか。また区民やNPOと協働しながら取り組むなど、協働的な側面を入れるのもよいのではないか。 151ページ、性的マイノリティに関する取組についてです。 当事者向け講座の具体的なイメージが持ちにくい。当事者向けと銘を打つと参加しづらい心理もあると思われるため、意見交換や交流の場などの位置付けが考えられるのではないか。 前の分野に戻りますが、ご意見がありましたのでご紹介させていただきます。 48ページの成果指標「社会や周りの大人に自分の意見を聴いてもらえていると思う子どもの割合」について、数値目標が現実的であるのか、またその根拠があるのかが気になっています。放課後児童支援員の資格取得率は95%から99%へ４ポイント増であるため、成果指標とし続ける必要性は高くないのではないか。児童

	館、子ども中高生プラザの高校生利用者数そのものは目指したい姿と必ずしも直接接続しないのではないか。公共施設以外にも子どもの居場所はあり得るため、成果指標から除外してもよいのではないか。自分を価値のある人間だと思う、社会や政治について自分たちの意見を表明しやすいなどの数値増加を成果指標に入れてもよいのではないか。 以上が遠藤委員からのご意見です。
清家区長	ありがとうございます。皆さんからもご意見がございましたらぜひお願いします。森山委員、子ども、権利の観点からどうでしょうか。
森山委員	何かあればメールを送付させてください。
清家区長	皆さん大丈夫ですか。
古長谷委員	施策１の３「若年層の平和事業への参画を促進します」は、港区平和青年団の派遣（今年は13人）など、すでに実施している事業と重なる内容に見えます。2040年代に向けた新たな方針として掲げる以上、既存事業との違いをどのようにイメージされているのかをお聞きしたいです。
清家区長	あまり新しいことではないということですよね、そのとおりだと思います。
古長谷委員	施策１のデジタル活用は、語り部の方々が90歳近い方を中心に高齢化している中で、記録・継承の手段として重要だと思います。ただ、平和分野全体としては、既存の取組のアップデートにとどまらず、何か新しい取組を打ち出したほうがよいと感じています。
清家区長	そうですね。議会からも色々な意見が出ていますし、国際性や色々な国の人たちと話すというようなところも考えて、今のマイナーチェンジのような点を考慮したいと思います。
森山委員	２つあります。１つは子どもの権利条約というものがあり批准もしている一方で、なかなか未だに浸透しきれてなくて、特に休む権利とか遊ぶ権利のようにあまり知られていない権利もありますし、港区だと教育虐待など教育に寄りすぎてしまう傾向もあるかなと思うので、子どもの権利を知ってもらうだけでも大きく変わるのではないかという意味では、そういう指標もぜひ入れていただきたいなと思います。 あと、港区では他区に比べるとまだ比較的問題として少ないかもしれないのですが、外国人差別とか、お子さんたちの差別問題というところは、特に貧困地域を中心にかなり深刻になっているので、本当に地域からも孤立して、親も助けられる力もなくてという子どもたちが、生活困窮や子どもの支援という文脈ではかなり高い比重になってきているので、外国人の人権にどう向き合うかということもかなり政治色というか、区の方針みたいなところが問われる分野かなとは思っているので、そこが外国人のことが書いていないだけで、１つのメッセージになってしまうのかなと思ってしまう部分もあるので、外国人の人権とどう向き合うかというところはぜひ入れていただけると嬉しいなと思いました。

清家区長	ありがとうございます。
事務局	ご指摘ありがとうございます。外国人の人権についての課題というのはもちろん認識はしておりますので、そこをどのように書き加えるのか、そこは調整させていただきたいと思います。
清家区長	反映させていただきます。ありがとうございます。ほかにご意見ありますか。大丈夫ですか。 それでは次に進めさせていただきます。次に行政・経営分野の政策・施策についてです。MINATOビジョン（たたき台）152ページをご覧ください。人材育成、デジタル活用、組織運営の観点からご意見いただければと思いますがいかがでしょうか。
古長谷委員	行政・経営分野の政策・施策は、他の分野と比べて急に出てきた印象があります。先ほどの平和分野と同様、MINATOビジョン全体のどの部分と連動しているのかが分かりにくいので、関係性を示していただきたいです。
事務局	これは横断的な分野の施策になっておりますので、連動しているというよりも行政の取り組み方のようなところから、少し分かりづらさはありますので、そこは素案として形を整えるときまでに違和感がない形にして掲載させていただきます。
中川委員	今は政策９についてですか。
清家区長	そうですね。佐々木委員、民間企業経営者のお立場から、効率的な行政運営、官民連携の観点について、ご意見いかがでしょうか。 DXという言葉でいいのかということはずっと言ってきたのですが、今、AXなども使われていますが、2040年代には結局呼び名は情報政策に戻っているかもしれません。時代の変化が早いので、言葉がすぐに変わっていくというところはあると思っているところです。
佐々木委員	DXとかAIは、区がどうこうの話なのかということはあります。
清家区長	間違いなく人は減っていき、行政需要が増えていくのは間違いないので、その中でどうやっていくかは、そこにかかっていると思います。
佐々木委員	合っているかは分からないですが、DX、AIが当たり前になっていく、AIなども会社等でも当たり前に使っていくものになっていくと思います。そういったものに先駆けて色々なものが出てくると思うので、そういったものの導入を支援するような取組を、港区は港区の会社に対して支援をしていくと、ほかの区よりも一歩リードできる部分もあるのかなと思うところですかね。
清家区長	なるほど、ほかの会社に対しての支援という視点もあるということですね。
中川委員	DX化やAIエージェントを使って業務を効率化していくとすごくよい側面と、人とのコンタクトが薄くなってしまう側面があるのではないかと思っています。 例えば私が関わっているところで言うと、子どもたちは紙でテ

	ストを受けますが、スキャナーで読んで、テストをデジタルで採点するという採点支援があり、それは教師の業務時間をすごく削減してよい側面がある一方、子どもたちがどのような間違いをしたのかとか、なんて書いたのかというところをデジタルに見送ってしまうような側面があります。あ、A、B、Who、What、など、もう決まっている答えであればそれは機械で採点してもよいと思います。そうでない部分というのはしっかりやはり目で見て感じて、テストの全体のできから、前回40点で今回60点だった子にかける声のかけ方と、前回80点だったのに今回は60点の子にかける声のかけ方は必ず変わるはずなのですが、従来先生はそういうところを全部手で作業していたから全部頭の中に入っていたところ、機械で入れてしまうと頭の中に入らなくなってしまって、無機質な60点という２人の解答用紙が出てきてしまうという側面があります。聞いたところによると解答用紙を返すときに「あれ、あの子何点だったっけ」と印刷して初めて認識するみたいなところがあるとのことです。 　これは1つの例として申し上げたのですが、行政サービス全般も含めて、デジタルにすると、繰り返しの作業みたいなところは人の感情は関係がないので効率化するけれども、住民とのふれあいの接点は大事にするという、メリハリがすごくしっかり持てるような言葉ぶりで表現されていると住民も安心します。多分DX、DXと言われたら高齢者の方を中心に「またスマホでしか問い合わせができない」となると思います。
清家区長	そうですね。外に向けてというより、中の話で私はお話をしたのですが、大概のところは本当におっしゃるとおりです。基礎自治体なのでやはり住民との距離が近く、そこがまさにエッセンシャルなところだと思っているので、そこをしっかり大切にしていくということも表現していきたいと思います。ありがとうございます。
森山委員	この議論はあまりしていないのかもしれないので、課題感の共有みたいなところで、163ページあたりの人材確保とか、働きやすいみたいなところに関連するかもと思っていたのですが、私が関わっているのは子ども・若者関連の部署が多いですが、自治体によって現場を直営にするか委託にするかとか、評価や配分だけをする自治体と、結構現場に直営しながら入り込んで子ども・若者の現状を理解しながらやっていく自治体と大きく二分しています。 　最近は民間に委託して、評価と配分だけをしていくことが主流なのですが、実際にその現場や自治体の方の顔色を見ると、やはり現場を知っている方々のほうが熱量を持って政策もつくっていくようです。 　一方で逆の、配分と選考だけをやっているところだと、来たばかりなのに評価をしなければいけなくて、よく分からないからとにかく安全安心に失敗しないように、というような流れもあります。 　主流は委託なのですが、今後はもっとDX化やAI化が進んでいくという流れとセットであれば、もしかしたらまた直営みたいな、

	職員が長く当事者と向き合って現場をしっかり理解して政策をつくっていくという動きもつくり直せるのではないかなという期待感もあります。主流ではないのですが、ぜひ港区でそういった取組をしていただけると、特に弱者と向き合う部署というのはそこでしかやる気が保てない部分もあるので、消耗した感覚が減っていくのではないかなということを思いました。かなり狭い分野の話かもしれないのですが、ぜひ検討いただければと思います。
清家区長	ありがとうございます。大事なご指摘だと思います。そうした視点も踏まえて考えていきたいと思いますし、文章としても入れられますか。
事務局	どういう表現があるかというところも難しいところなのですが、今のままで委託なりをしている会社が永久にこのままということはないので、やはり常にそこは改善していくところですので、何らかの形でそこは対応していきたいと思います。
清家区長	区役所改革も進めているところですが、政策立案をするところは現場と自分たちがきちんと見てやっていく、そこがまさにモチベーションになるという、特に弱者のところは本当にそうだと思いますので、そうした視点もしっかり含めて、文章としても反映できたらと思います。ありがとうございます。そのほか、大丈夫ですか。 それでは次に進めさせていただきます。福祉・保健分野の政策・施策についてです。MINATOビジョン（たたき台）54ページをご覧ください。
清家区長	何かご意見がありましたらお願いします。 では古長谷委員、若い世代の視点から地域のつながり、孤立防止について感じることや、また若者が支援を受ける側にも地域を支える側にもなりうるという観点から何かありますか。
古長谷委員	世代間で支え合うことの必要性は理解されていても、若い世代が高齢者と直接関わる場は地域の中にほとんどありません。若者が地域を支える側として関われる場を意識的につくっていくことが必要だと思います。
清家区長	多世代、支え合いを進めていきたいと思います。 平田委員どうですか。
平田委員	福祉・保健分野で、港区さんにはたくさんの民間企業、本社なども所在されていますので、そういったところのノウハウの活用みたいな表現がどこかに書かれているのでしょうか、というのは今思いました。 例えば東京ガスは、シニア世代の健康づくりの観点といったところから、フレイル予防だとか、食を通じて健康をつくっていくというようなセミナー等の教育システムがあるのですが、色々な企業でそういったノウハウがきっとあるはずですので、せっかくたくさんの企業が所在していますので、そういったノウハウが生かせないかなと感じています。
清家区長	ありがとうございます。事務局、お願いします。

事務局	今、港区地域保健福祉計画との関係で、方針の部分が調整中になっていましてご覧いただけないのが大変申し訳ないのですが、おそらくそういう観点も加味していると思います。最先端の民間事例的なものを反映していくということもあると思いますので、再度確認をさせていただきます。ありがとうございます。
清家区長	ありがとうございます。
森山委員	質問しても大丈夫ですか。
清家区長	どうぞお願いします。
森山委員	２つあって、64ページが生活保護受給者捕捉率ではなくて割合なのが何か理由があるかというのが１つと、62ページの自殺死亡率15%は、とても高くて驚きます。
事務局	そこは確認いたします。いずれにしましてもこの表現ですと分からないので修正いたします。 生活保護受給者について割合にしている理由は、おそらく全世帯数に対して生活保護世帯数が何世帯あるかという割合でしか成果指標を取りようがないというところが現実的にあるためだと思います。
森山委員	確かに捕捉率のデータは取り方が難しいのですが、今、生活保護バッシングみたいなことがかなりSNSでもあるので、そういう数字自体を上げていくような目標よりは、特に港区だと、必要な人にどれくらい届いているという成果指標を出すほうがよいかなと思いました。
清家区長	ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思います。
事務局	実は今、行政評価委員会による政策評価が並行して行われておりまして、生活保護受給者の割合は、生活保護から自立に向かうパーセンテージが増えれば、それはまた１つの成果指標になるのではないかという議論にもなりました。並行して議論が進んでおりますので、今の意見は本当に参考になりました。ありがとうございます。
清家区長	ほかにご意見等はありますか。 成年後見人制度についても、港区社会福祉協議会で安心サポートのような事業があるので、そういうところの割合で出すこともできますか。
事務局	割合としては把握できると思います。
清家区長	分かりました。ほかにご意見等はありますか。
森山委員	民生委員・児童委員についても、最近は子どもの虐待の発見はほぼできていなくて把握できていないという課題もあるので、充実というよりは、例えば民生委員と住民で年に１回は接点を持つなどの、違う指標にしたほうがよいと思います。高齢者関係はそうではないかもしれないのですが、特に子ども・子育て分野においては、民生委員・児童委員の虐待発見率が最下位当たりになっているので、子どもの分野から見ると成果指標がこれだとかなり違和感はあるなと思いました。

清家区長	ありがとうございます。港区社会福祉協議会の事業を入れられないとなると、例えば指定管理の事業なども色々あるので、ここの成果指標のところは整理するといいかなと思います。ほかに大丈夫ですか。 それでは次に進めさせていただきます。最後に防災・危機管理分野の政策・施策についてです。MINATOビジョン（たたき台）96ページをご覧ください。大木委員から事前にコメントを頂戴していますので、事務局から紹介させていただきます。
事務局（大木委員のご意見代読）	大木委員のご意見です。 100ページから101ページ、地域での防災活動についてです。どこかに地域での防災活動を通じて港区に暮らす主体としての自覚ややりがいを得られるという趣旨の文言が入ってもいいのではないか。国の方針も次年度からより一層地域主体の防災に向けて動いていくものと拝察している。 103ページ「２ 多様化に対応した災害時の体制を構築します」についてです。大切な対応方法の整備など記載がやや漠然としているため、内容をもう少し具体化してはどうか。地域の要配慮者の把握から、顔の見える関係性と信頼関係の構築、災害時対応方法の整備、必要に応じた個別避難計画の作成、訓練での実践へとつながる流れで整理してはどうか。 103ページ「３ 帰宅困難者対策を推進し滞留者を防止します」について、子どもを預かる施設の防災対策の推進や安否確認システムの向上について記載を追加してはどうか。帰宅困難者の半数は迎えに行くべき家族がいると回答しているため、子どもを預かる施設における防災対策や安否確認の仕組みをもっと強化する視点が必要ではないか。 以上でございます。
清家区長	ありがとうございます。次に学生分野の森園委員にもご意見いただければと思うのですが、森園委員お願いします。
森園委員	学生の視点から考えたときに、港区には昔から長く住んでいる方がいらっしゃるのはもちろんだと思うのですが、私のように、大学進学を機に上京し港区と関わりを持った方や、転勤で新しく引っ越してきた方など、慣れていない土地で被災し、避難しなければならないという可能性も非常に多くある点を改善したほうがよいかなと感じました。日中過ごしている港区の学校の周辺あるいは自宅の近くなどでどこに避難所があるのかを日常の生活では正確に把握しきれず、自分から情報を取りにいく人もそれほど多くないと思うので、防災力を高めるにあたっては直感的に防災情報にアクセスできる仕組みが必要かなと感じました。
清家区長	ありがとうございます。おっしゃるとおりと思います。 港区民は27万人ですが、昼間は学生、働いている人、海外から来られている人などで人口が4倍の100万人近くなるので、何か起きたときに皆さんがどうやって自分の身を守るための区からの防災情報をしっかりと受け取れるか、日頃からそういうところに気が付けるようにしておくというところは非常に重要だと思います。そうした考えを踏まえた上で進めていきたいと思います。ご

	意見、ほかにございますか。
平田委員	では、防災・危機管理分野の105ページ、「３　多様な避難を支える体制を整えます」は、非常に大切だなと感じています。区民の方々が避難所に来たときに、夏は非常に暑いですし、冬は非常に寒いということで、冷暖房設備は完備されていたら素晴らしいなと思っています。スマートフォンを充電できないと、今の時代になかなか避難生活が送れないといったところもありますので、充電設備の整備も非常に大切かなと思っています。ただ、それはお金がかかることですし、すぐには実現できないことかもしれないので、そういう意味では100ページで在宅避難の重要性みたいなことが書かれていますが、これも非常に大切になってくるのかなと感じています。104ページの現状と課題に「多様な避難生活を支える環境や仕組みを一体的に整備する必要がある。」とあるように、何から何まで避難所に避難してもらうのではなくて、在宅においても避難ができるということを区民に周知することが大切かなと感じています。
清家区長	ありがとうございます。区内の世帯の約9割はマンション等の共同住宅で暮らしており、在宅避難について日頃からどう伝えていくかというところもあると思います。港区の財政が豊かなら今おっしゃったようなそういうところに全部使うように、というのはすごくよくいただく意見でもありますので、しっかりそこを考えていきたいと思います。ほかにご意見等ありますか。
古長谷委員	施策４の防犯について、六本木などの繁華街に夜間集まっているのは港区民ではなく、外国人を含む区外の方が中心です。基本方針「３　安全・安心に過ごせる地域づくりを推進する」は区民を主な対象とした書き方になっていますので、区外から訪れる方に対する防犯の方針も示したほうがよいと思います。
清家区長	分かりました。その点も踏まえて、検討したいと思います。 ほかにはご意見ございますか。 それでは、予定していた終了時刻になりました。最後まとめてご意見や言い残したこと等がありますか。
古長谷委員	全体的なことなのですが、成果指標の現状値がR8年度、経過値はR12年度、目標値が2040年と、元号と西暦があるので分かりづらいのかなと思います。
清家区長	そうですね、全部西暦に揃えたほうがよいのではないですか。
事務局	年代の表記について統一性を図るように、両方を書くという表記に調整いたします。
清家区長	そうですね、そこはお願いします。ほかにございますか。
中川委員	成果の示し方として、アウトプットで書いている部分とアウトカムで書いている部分があります。最近、霞が関などではアウトカムで書くようになっています。KPIなど実績を書かざるを得ないところはあると思うのですが、何回やったかではなくて、やった結果がどうなった、自分がこう理解したというところは、極力アウトカムで書くという思考のほうが成果として読み取れると思い

	ます。
清家区長	ありがとうございます。ほかにございますか。
平田委員	すごく細かいところなのですが、アクションプランの計画事業ところで事業費が記載されていまして、非常に大きい金額の事業もあれば、それほど大きくないところもあります。これは多分単位が「円」なのかなとは思っていますが、単位を記載したほうが分かりやすいかなと感じました。
清家区長	ありがとうございます。
事務局	修正いたします。
清家区長	私からいくつか追加で、最初にみんなで描いた港区の将来像のところ、この絵はタウンフォーラムで書いてもらったものですか。表紙のデザインなど色々と考えてもらっていますが、デザイン的なところが非常に重要だと思うので最初のビジョンのところの印象的なものを大事にして、デザインで魅せるというか、言っていることが2040年代の未来という感じの、工夫があってほしいなと思います。
事務局	これは素案用のものでこのようにしてありますので、最終形はこうなるというわけではないということです。
清家区長	これはみんなで描いたわけではないのですか。
事務局	そうではないです。文章はみんなで考えています。
清家区長	もう少し訴求する感じのデザインにするようにお願いします。 皆さんはほかには大丈夫ですか。 それでは、本日の意見交換はここまでとさせていただきます。今後の予定について事務局から説明させていただきます。
事務局	今後の予定でございます。 本日の会議での委員の皆様のご意見を踏まえまして、10月にMINATOビジョンの素案を取りまとめます。 その後、11月に素案を公表しまして、約１ヶ月間、区民意見募集を行い、区民意見等を反映した上で、来年１月にMINATOビジョンとして決定をいたします。 本日、委員の皆様からいただいたご意見への対応につきましては、後日メールでご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 最後に１点ご協力のお願いでございます。 港区では、令和７年６月に港区少子化対策本部を立ち上げ少子化対策の検討を進めており、MINATOビジョンにおいても全庁同じ取組のリーディングプロジェクトの１つとして少子化対策を位置付けています。 ６月に実施しました区民アンケートの結果を踏まえまして今後の施策の方向性を検討するに当たり、コ・デザイン会議の委員の皆様にもご意見を伺いたいと考えております。詳細は別途ご連絡いたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

清家区長	最後に一言ご挨拶させていただきます。 本日、議論の中で、皆様方それぞれ専門的な立場から非常に意義深い示唆、ご指摘をいただきまして本当にありがとうございました。いただきましたご意見をしっかりと踏まえまして、このMINATOビジョンの内容をさらに磨き上げていきたいと思います。そして、2040年代の港区の将来像の実現につながる計画となりますように、引き続き検討をしっかりと進めてまいります。 改めまして、本日はご多用の中、積極的なご意見、様々にいただきまして、本当にありがとうございました。 以上をもちまして、第３回MINATOビジョン　コ・デザイン会議を閉会させていただきます。 本日は本当にありがとうございました。お疲れさまでした。 ＜閉会＞